加古・印南の神社

野口神社　加古郡野口村野口

速玉男命・品陀別命・大山咋命・須佐之男命・天伊佐々彦命を祀る。近江日吉神社よりの勸請と傳え、もと山王五社宮とも五所大明神とも稱せられたが、明治初年現社名に改稱す。例祭日十月十五日、宮司重松景彦・禰宜重松景正

泊神社　加古郡加古川町木村

天照皇大神・國懸大神・少彦名神を祀るもと泊大明神と稱せられ、領主より社領十石を寄せられ、承應年間小笠原忠政の臣宮本伊織社殿の再建をなすという。例祭日十月七日、宮司森本保

荒井神社　加古郡荒井村荒井

大己貴命・事代主命を祀る。足利時代播磨の太守赤松氏の崇敬を受け社殿を再建し、神田を寄せらる。明治四十一年惠美酒神社を合祀す。例祭日十月十一日、宮司廣瀬正三

八幡神社　加古郡八幡村野村

品陀別命を祀る。古き社殿は天正六年三木城攻めの際回祿にかゝり、天正十六年現社殿を再建す。慶長年間藩主池田輝政社領十石を寄せ、元和五年板倉勝重これを安堵す、當社の厄除祭は古來より著名例祭日十月十四日、宮司宮城功

八幡神社　印南郡西神吉村宮前

譽田別命を祀る。應永年間の創立、神吉の莊天下原村の鞍馬寺の境内に鎮座せしも、後ち神吉の大國村に遷座し妙見大明神と稱す。後年現地にうつり、池田輝政・板倉勝重社領五石を寄せ、明治維新に妙見大明神を八幡神社と改稱す。例祭日十月十六日、宮司喜多山明・禰宜喜多山登

天滿神社　印南郡大塩町宮本

菅原道眞を祀る。菅公左遷の際、普光寺に納めたと傳ふる靈鏡を得て、天文二年大塩次郎が崇祀した社である。社領十石。例祭日十月十五日、宮司中村一

天滿神社　印南郡曾根町

菅原道眞・同公達・天穗日命を祀る。延喜元年菅公左遷の途次、船を伊保の港に寄せ檜笠の岡に登つて稚松を植えた。即ち初代曾根の松が是である。後道眞の爲に一祠を營み併せてその祖神をも祀る。一に曾根天神・檜笠天神ともいう。德川時代朱印三十石。二代目靈松は昨年惜しくも枯死した。例祭日十月十三日、宮司糟谷襄

湊神社　印南郡的形村的形

素盞嗚尊・大歲神を祀る。萬葉集「まとかたの湊」時代よりの湊を以つて社號とし、國内神名帳の湊明神は本社を指す。大塩的形の塩燒く煙を見はるかす高台に建つ。社領六石六斗。例祭日十月十四日宮司神榮宣鄉　（次號につゞく）

附記　加古・印南兩郡の主要神社を採錄せんとするもので、神社大觀・神道大辭典・兵庫縣神社誌の三書を底本とした。こゝに社領何石と記したものは德川時代のことで、現今はすべて事情を異にする。

Scanned by CamScanner